



追悼

日本カバヤ・オハヨーホールディングス グループ会長 野津 喬

父である野津喬は昭和 43 年にオハヨー乳業株式会社に入社以来、当社グループの中核としてリーダーシップを発揮し、その事業拡大に向けての道筋を開拓してきました。

一方で、若い頃から大切にしていた「日本の最大の資源は人である」という信念の下に企業経営の傍ら、公益社団法人日本青年会議所で会頭まで務めさせていただくなど、人の縁を紡いでいく活動にも傾注していました。そこで培った熱い想い、そして何より多くの方々と結ばせていただいた友情は父にとってまさに最大の財産であったと思います。企業経営を引き継いだ者としてはもちろん、息子としても羨ましい限りでした。

代表権を引き継いで 2 年余りが経ちましたが、これからの当グループの発展を見守り、会社の成長を見届けてもらいたかったと、大変悔やまれます。しかし、こうなる前に愛情と覚悟を以って、代表取締役社長を私に指名し委譲したこと。新しい体制の活躍を心から願ってくれていたこと。強い責任感で、全役員・社員、全ての従業員の幸せを心から願い、今後の発展を見守ってくれたことに、心から感謝しています。

72 歳というあまりにも早い旅立ちではありましたが、本人なりに全力疾走の日々を過ごし、悔いのない半生であったのではないのでしょうか。遺された者からすれば、あまりにも急で、あっけない別れですが、その安らかでほのかに笑みを浮かべたような最期の表情を見て、父の想いに報いるには社業の限りない発展にこの身を燃やし尽くす以外にないと改めて確信しました。全社員が心を合わせ「真の欲求を究めて、ホンモノをカタチにする」という誓いを実践していくこと、それが何よりの父への最大の弔意だと考えています。

会長、本当にお疲れ様でした。心からご冥福をお祈り申し上げます。

日本カバヤ・オハヨーホールディングス

代表取締役社長 野津基弘



「想いは伝えられる」 作品を通して伝えることの 大切さに気付きを与えたい

2018年3月公演予定の日本カバヤ・オハヨーホールディングス主催 岡山子ども未来ミュージカル「さよなら、ハロルド！～花咲ける海原～」が、いよいよ出演者も決まり、年明けには岡山での稽古が始まります。今回は脚本家として当ミュージカルに参加してくださる坂口理子さんに取材を依頼。脚本家として数々の賞を受賞し、映像・舞台問わず話題作を多数手掛けている坂口さんにこれまでの歩みや舞台の魅力、そして「岡山子ども未来ミュージカル」にかける想いを聞きました。



坂口 理子(さかぐち りこ)

テレビドラマ、映画などの映像脚本や舞台脚本、および、小説などを執筆。

テレビ朝日21世紀新人シナリオ大賞・優秀賞、『おしゃしゃのシャン!』で創作テレビドラマ大賞・最優秀賞、WOWOWシナリオ大賞・優秀賞、第36回城戸賞など数多くの脚本賞を受賞。2017年夏公開のアニメーション映画『メアリと魔女の花』（米林宏昌監督）の脚本も担当。舞台作品としては、13年に演劇プロジェクト・テトラクロマットの旗揚げに参加、14年12月に第2回公演、16年8月に第3回公演（吉祥寺シアター）を行う。14年より、全国上演を続けるミュージカル『しあわせのタネ』（八峯企画作品）の脚本も手掛けている。

■主な作品

- ・高畑勲監督のスタジオジブリ映画『かぐや姫の物語』（15年アカデミー賞ノミネート）
- ・ドラマ『おしゃしゃのシャン!』（08年NHK・共同脚本）
- ・ドラマ『私が恋愛できない理由』（11年フジテレビ・共同脚本）
- ・小説『フロイデ!～歓喜の歌でサヨナラを～』（12年泰文堂）
- ・ドラマ『いとこの森の家』（15年NHK）（第42回放送文化基金賞奨励賞受賞）
- ・教育番組『昔話法廷 さるかに合戦・ヘンゼルとグレーテル』（17年NHK教育）
- ・ドラマ『女子的生活』（18年NHK）

—— 2017年公開された映画『メアリと魔女の花』の脚本も手掛けるなど大活躍の坂口さん、まずはこれまでの歩みについて聞かせてください。脚本家を志すようになったのはいつ頃からですか。

明確に脚本家を目指して勉強を始めたのは、大人になってからなんです。大学卒業後、一度は一般企業に就職したので、その時点では職業にするつもりはなかったです。でも、昔から本が大好きで沢山読んでいましたし、作文など、文章を書くことも好きでした。クラスのお楽しみ会などでは台本を書くことを自ら引き受けていたくらい。中高でも演劇部に所属し、台本も書いていました。学生時代は舞台を創ることが好きで没頭していたという感じでしたね。でも、脚本家を目指すようになるのは、もっと先のことです。

——大学でも演劇に携わっていたのですか。

高校卒業後も、高校の演劇部のOB・OGで立ち上げた学生劇団を続ける一方で、大学では舞台美術研究会に所属しました。私の通っていた早稲田大学には沢山の演劇サークルがあるのですが、彼らの舞台美術の製作や照明を引き受けるサークルです。いわゆる裏方なのですが、舞台を創造する一員でもありながら、俯瞰して見られることが面白くて夢中になって取り組んでいました。没頭するよりも離れたところから見ているほうが楽しくて。その時に、舞台そのものが好きだということに気づきました。演技、演出、音楽、衣装、照明…舞台は色んな役割、要素が合わさって完成するものですが、そのどれか1つというよりも全体が好きだったんです。その全体の設計図の役割を担うのが脚本なので、脚本家を志すようになるのは、この経験があったからですね。

——そこからプロを目指すのかと思いますや、卒業後は一般企業に就職されたのですね。

いずれ、表現するような仕事をしたいと思ってはいましたが、それ一本でやっていく覚悟がなかったこともあり、まずは社会経験が必要だと思って、NHKのグループ会社に就職しました。主にDVDの企画や制作、販売する会社でした。ドラマのDVD制作の仕事では、ブックレット制作のために台本を読んだり、ドラマの制作現場で裏話を取材したり、映像制作の裏側を垣間見ることができる貴重な経験をしました。元々映像関係には興味があったので、楽しく仕事をしていました。その中で感じたのは、映像制作も舞台と同じで、脚本が重要な役割を担っているということでした。やっぱり脚本の道に進みたいと強く思うようになり、脚本家を目指すことに決めました。



——そこからシナリオ・センターで勉強を始めたんですね。

不器用なので両立はできないと思い、6年間勤めた会社を思い切って辞めて、本格的にシナリオの勉強を始めました。まずは色々なシナリオを読むことから始めたのですが、最初は全く書き方が分かりませんでした。それまで独学で書いてきましたが、プロに習いたいと思い、シナリオ・センターに通うことを決めました。

シナリオ・センターで学びながら、一方で自分で作品を書いては、コンクールなどに送るのですが、落選続きでした。何がダメで落選しているのかも分からないので、やみくもに書くのはなかなか辛かったです。同じ学校に通う同志たちとお互い添削しあって、切磋琢磨していました。シナリオ・センターに通いはじめて約5年後、「おしゃしゃのシャン!」という作品が第31回創作テレビドラマ大賞（日本放送作家協会）で最優秀賞を受賞し、念願のデビューが決まりました。大学時代にお世話になった村の歌舞伎が題材だったのですが、その村に恩返ししたいという思いがあって書いた作品だったので、その作品でデビューできたことは本当に嬉しいことでした。

——脚本家としてデビューしてからはどんな苦悩がありましたか。

コンクール作品は自分の好きなように書いていけばいいのですが、プロとなると自分の創りたいものを創るというわけにはいきません。見る人の気持ちを動かすことができるような作品でなくてはなりません。一方で、求められるものだけを提供するのでは趣がないですし、そこにいかに自分の想いや伝えたいことを忍ばせていくか、そのせめぎ合いです。そういう意味で、脚本家はアーティストではなく職人だと思い、毎回試行錯誤しています。

また、制作に関わる全ての人の想いをカタチにする、その設計図を担うのが脚本なので、責任の大きな仕事であることには、毎回身が引き締まる想いです。デビュー作の「おしゃしゃのシャン!」は、題材となった地域の方々が本当に喜んでくれて、エキストラで協力いただいたり、沢山声を掛けていただいたり。本当に色々な人の想いを背負って創ることを実感しましたし、それを脚本が左右するのだと、大きな責任を感じた経験もありました。そのプレッシャーが辛いこともありますが、良い脚本を書かなくては!と、自分を奮い立たせています。

——映像から舞台まで幅広く作品を手掛けていらっしゃるんですが、舞台の魅力を教えてください。

終わってしまうと何も残らないところが舞台の一番好きなところですよ。祭りのあとの静けさというか。映像と違って失敗が許されない一度きりだからこそ終わったあとの達成感はひとしおです。また、映像はシナリオから作品になるまで、より多くの人の手が加わるので、少し遠くなってしまうというのもあって。舞台は直に作品になる瞬間を見ることができ、客席と同じ空気を共有できるので、その場でしか味わえないハラハラ、ドキドキした気持ちが楽しいですね。

——今回ご一緒させていただく「岡山子ども未来応援プロジェクト」について、オファーを受けていただいた背景を教えてください。

子どもたちが主役でこれだけ大きなプロジェクトに関われる機会はなかなかないですし、1回きりではなく、継続的な取り組みにしていきたいというその想いに非常に共感しました。私は幼い頃から色々な作品に触れられる環境にいましたが、子どもたちにもっと能動的に文化に触れてほしい、その素晴らしさを感じてほしいと思っています。その観点で、鑑賞できる場を提供するだけでなく、子どもたちを巻き込むことは大きな意義のあることだと感じています。同じ世代の子どもたちがプロと一緒に本格的な舞台に出ているというだけで興味を持ちますよね。刺激にもなりますし、今度は自分が挑戦してみたい！という動機にも繋がると思います。文化は人の気持ちや想像力を豊かにするものです。私も文化を通して子どもの成長に貢献したいと強く想っています。岡山の子どもたちの心をつかめるものになるように、脚本にも熱が入っています！

——実際何度も現地に足を運び、岡山を舞台に脚本を書いて頂いていますが、題材としてはいかがでしょうか。

岡山はすごく多彩です。海も山もあって、水も豊かで。今回の物語は主人公が岡山を縦断するようなストーリーなのですが、取り上げたい地域やシーンが沢山あり、すごく創作意欲をかき立てられました。特に日生港での「アマモの再生活動」は非常に心を惹かれるものがありました。実際に、地域のボランティアの方々に混ざって体験したのですが、地域の方々が自分たちの手で岡山の海を守っていこうとする姿勢と地域に対する想いが本当に素晴らしいと思います。真庭市のバイオマス産業もそうですが、岡山の豊かさは地域の方々の愛情によって、継承されているのだと実感しました。作品を通して、表面的ではない岡山の内面の美しさを伝えたいです。



▲アマモ再生活動に参加した坂口さん



▲地域の方々と触れ合う坂口さん

——岡山がどのように表現されるのか、とても楽しみです！では最後に今回の演目「さよなら、ハロルド!～花咲ける海原～」で伝えたい想いは何でしょうか。

今回の作品に込めたメッセージは「想いは伝えられる」ということです。物事は物理的になくなつたとしても、人の想いや気持ちは伝わって、どこかで花を咲かせる、というような心のありようを表現したいと考えています。世の中はどんどん効率化して、伝えることが疎かになっているのではないかと思います。このミュージカルを通して心を伝えることの大切さに改めて気付いてもらいたい。それが一番の願いです。



第一回 岡山子ども未来ミュージカル
「さよなら、ハロルド! ～花咲ける海原～」

公演をサポートする

社内実行委員20名

を募集します！！

- ✓ 地域貢献がしたい
- ✓ 舞台が好き
- ✓ 子どもが好き
- ✓ 一緒に舞台を盛り上げたい
- ✓ 経験のないことをやってみたい

そんな方、ぜひ参加してみませんか？

実行委員の主な役割

1. 2018年1月14日(日) オーディション合格の子どもたち全員集合によるオリエンテーションを皮切りにスタートする、毎週末(土日祝)の稽古にお世話役として2名ずつ参加(子どもたちが楽しく稽古に参加できるよう、子どもたちをサポート)
2. 2018年3月23日(金)～25日(日) 舞台設営のスタッフとして劇場入り

■23日(金)～25日(日)

- トラックからの荷下ろし・大道具・小道具搬入・衣装部サポート
- ケータリング担当・受付準備・お土産準備・ブース準備 etc

■25日(日)公演当日

- 本部場外整理・受付・モギリ(チケット切り)・チラシ等の配布
- 場内整理(客席案内)・アンケート回収・劇場バラシ(撤収作業・トラック積み込み) etc

お問い合わせ・応募はこちら

▼岡山子ども未来ミュージカル 事務局

(担当：豊田)

Mail: kodomo-musical@kabaya-ohayo.jp

Tel: 03-3222-7311

応募の際は、下記事項をご記入のうえ、

1月5日(金)までにご連絡ください。

・氏名(ふりがな) ・所属会社、部署、役職

・電話番号 ・生年月日 ・性別

・応募動機

ご応募、お待ちしております！

企業ブランド確立に向けた B to C 業務への取り組み

(文: オハヨー乳業株式会社 東京支店営業三課 金井靖弘)



オハヨー乳業株式会社

東京支店営業三課

金井 靖弘

オハヨー乳東京支店は、11月11・12日の2日間、東京都が主催する食育フェアへ初めて参加しました。参加が決まったのは8月で、昨年度より問い合わせていた東京都の事業部スタッフから「今年も食育フェアの出展を検討いただけますか」というお話をいただいたのがきっかけです。

社内でもお客様との接点づくりに取り組んでおり、私にも何かできることはあるのではないかと模索している中、見つけたこの催しは、2日間で約4万人が来場する大きなイベントでした。昨年「参加したい!」と思い、主催者へ連絡を入れたものの既に募集を締め切っており、参加することができませんでしたが、東京都の担当者が当社のことを覚えており、今回は主催者側から出展の打診があったのです。

大勢の来場者に商品の魅力、そして私たちの考えを直接伝えることができるイベントに参加するチャンスであり、その場で参加の意思を伝え、帰社後上司へ相談。「ぜひ参加しよう!」と言ってもらえたことで話は一気に進みました。

イベントの準備は不慣れなことも多く、日々の営業活動との並行は非常に大変でしたが、周りの仲間を巻き込むことを意識することで、今まで関わることの少なかった営業部以外の社員とも連携し、多くのフォローがあったことで、無事成功に繋げることができました。

イベント当日は、ご来場いただいたお客様から「こんなすごいヨーグルトがあったなんて知らなかった」「正直ヨーグルトって沢山あってよく分からなかったけど、直接メーカーの方に説明してもらえてすごく勉強になりました」といったコメントもあり、直接消費者に訴えかけることが最も本物の価値とこだわりを伝えることができるということを実感しました。

現在、オハヨー乳業は「医と食のバランスを変える」というテーマを掲げ、様々な事業に取り組んでいます。今回のイベントでは、ロイテリヨーグルトやセノビックを紹介しましたが、実際にお客様との接点をつくり、しっかりコミュニケーションを取ることで、また、そのためにも社内外を巻き込み、多くの方々と連携して取り組むことが掛け算として大きな力になることを学ぶ経験となりました。

今後も多く人を巻き込みながら、自分自身も成長したいと考えています。



「カバヤ共栄会・オハヨー清友会」合同開催及び「リンク&リンケージ盛運会」開催

(文: オハヨー乳業株式会社 購買部 柚木桂志)



オハヨー乳業株式会社 購買部

柚木桂志

カバヤ食品、オハヨー乳業、リンク&リンケージは、11月8日～10日、日本カバヤ・オハヨーホールディングスのフラッグシップコースであるザ・ロイヤルゴルフクラブで、取引業者様を招いてのゴルフコンペを開催しました。例年は各事業会社主体で実施していたコンペですが、ホールディングス化に伴い、カバヤとオハヨーは初の合同開催となりました。リンク&リンケージと合わせて延べ190人が、来年開催予定の「～全英への道～ミズノオープン」の舞台となるコースを体験していただきました。

今回は、今後の取り組み強化を目的に、プレー前日に各社の方針説明会を実施。基弘社長、樫田専務、三國専務、沖山副社長が今後の経営方針を説明しました。基弘社長は「世界を見据えた商品政策をもって、皆さまと共にマーケットを創造したいと強く想っている。更なるご支援をお願いしたい」と挨拶。カバヤ食品とオハヨー乳業の今後の方針説明に加えて、「取引先の皆さまにロイテリ菌のファンになってもらいたい」という想いもあり、オハヨーバイオテクノロジーズ木下専務が、ロイテリ菌の有効性について説明しました。また、ロイテリヨーグルトのCMに出演するシシド・カフカさんからのビデオメッセージもサプライズで上映。いつもと雰囲気の異なるスッピンの可愛いカフカさんに思わず笑みがこぼれていました。

コンペ当日は、各組にグループ社員が入って一緒にプレーしコンペを盛り上げ、戦略性に富んだコースにチャレンジ。ホールインワンも出るなど、大盛り上がりのコンペとなりました。

また、今回で3つの会として実施するのが最後ということで、各会長様には最後に花束と記念品を贈呈。次回からは今後の取り組みをより強化する目的で3つの会が統合し新たな会として出発します。参加者からは「方針説明会でより今後の方針がはっきりした」「コースの景観の美しさ、整備が行き届いたグリーンに感銘した。またプレーがしたい」「ミズノオープン用のラフとグリーンには打ちのめされたが、またチャレンジしたい」などのお声をいただき、有意義な時間を過ごしていただいた様子でした。更なる取引強化に繋がる良い機会となったと思います。今後もこのような交流の機会を大切に、相互の事業拡大に努めていきます。



清友会共栄会全員集合写真



盛運会全員集合写真



方針説明会で全体戦略を説明する基弘社長



盛運会会長のランテック 相談役瀧内様に花束を贈呈



清友会会長のキョードー社長 小川様と共栄会会長の大阪

シーリング印刷 社長松口様

に花束贈呈



見事ホールインワンを

決めた丸正製粉株式会社の

江木様

「エヴァンゲリオン」とのコラボが実現！ 「ほねほねゲリオン」発売！

(文: カバヤ食品株式会社 マーケット・バリュー戦略部
カテゴリー戦略室 吉田雄一)



カバヤ食品株式会社 マーケット・バリュー戦略部
カテゴリー戦略室 吉田雄一

入社3年目の2002年に「ほねほねザウルス」を発売してから、今年で15周年を迎えました。我が子のように育ててきた商品なので、長く多くの方々に愛される商品となったことについては非常に感慨深いです。そしてこの度、15周年という節目の年に、世界的に支持される「エヴァンゲリオン」とのコラボを実現することができました。普段から情報収集やアイデアのヒントを得るために社外の人と飲みに行くなど、コミュニケーションの機会を大切にしてきたのですが、そうした場で「エヴァンゲリオンと組みたい」と話したことで、紹介してくれる人と出会えたことがきっかけでした。また、コラボとはいえデザインアレンジにも寛容で、単にブランドを借りただけではない、ほねほねザウルスとエヴァンゲリオンを融合させた独自性のあるものになったと思います。具体的には、ほねほねザウルスは口が開いて表情がつけられるので、そのギミックを初号機はもちろん、本来は口がない零号機にもデザインアレンジとして追加することができました。また武器パーツにもトゲをつけたり、生物的な曲線のラインにしたり、随所に骨を感じさせるようなデザインアレンジにするなど、ほねほねザウルスの特徴を最大限に生かしたアレンジを加えることができました。

これまでもモンスターハンターやパズドラなど、人気キャラクターとのコラボを手掛けることで新しいファン層の開拓に成功してきたので、大人のファンが多いエヴァンゲリオンとのコラボによって知名度アップを図りたいと考えています。

また「ほねほねザウルス」のデザインを公募する企画『ぼくのかんがえた超カッコイイさいきょうのほねほねザウルス』デザインコンテストも実施中。グランプリ作品は商品化されるという夢のある企画に、幼稚園～小学生を中心に1000通以上の応募が集まっています。デザインのクオリティも高く、子どもならではの自由な発想には圧巻です。子どもの夢を叶えるような取り組みをしたくて始めた企画でしたが、子どもたちから刺激をもらい、発想のヒントを得ることもできました。今後も相乗効果が生まれるような企画を以って、より価値のある商品に育てていきたいと思っています。



プレハブ協会野球大会で9年ぶり優勝

(文: ライフデザイン・カバヤ株式会社 野球部
キャプテン 山崎弘道)



ライフデザイン・カバヤ株式会社
カバヤホーム事業部
倉敷CLT店副店長
キャプテン・山崎 弘道

ライフデザイン・カバヤ野球部（監督・石本隆常務）は、10、11月に開かれたプレハブ協会の第26回野球大会で優勝しました。

同大会は、岡山県内のプレハブ住宅メーカーが参加し毎年開催している野球大会で、今回は全7チームが熱戦を繰り広げました。

甲子園経験者で実業団でも活躍した石本監督の下、若手社員を中心にした23人で、まずは総当たりの予選リーグに挑みました。僅差の試合をものにするなど順調に勝利を重ね、グループ1位で決勝トーナメントへ。準決勝を順当に勝ち上がり、迎えた決勝はライバルの積水ハウス。ライフデザイン・カバヤが2点を先制。工事部の難波要一さんが1回から快投を続け、なんとノーヒットノーランを達成。9年ぶりの優勝となりました。石本監督は「遊びでも勝ちにこだわるのが大切。それがチーム、会社全体の連帯感向上につながる」と話していました。これからも住宅販売、野球ともに全力で取り組み、さらなる高みを目指します。



「セボンスター」でオリジナルフォトフレーム

(文: カバヤ食品株式会社 広報室 岩本絃子)



カバヤ食品は、9月16日、丸善ジュンク堂書店と接着剤メーカー、セメダインとタイアップし、丸善新宿京王店(東京都)で、ペンダントが入った女兒向け玩具菓子「セボンスター」を使ったオリジナルフォトフレームづくりを開きました。

前回好評だったフォトフレームづくりの第2弾で、当日は子どもを中心に約40人が参加。フォトフレームに色とりどりのセボンスターを接着し、思い思いにフォトフレームを作りました。

カテゴリー戦略室 近正瑠依さんのコメント

「今年で発売38年目を迎えるセボンスターは、アレンジ次第で大人も楽しめる商品です。今後30、40年販売できる商品になるよう、ブランドを育成していきたいです」

カテゴリー戦略室 河村早苗さんのコメント

「15年ぶりにセボンスターの商品担当に復活しましたが、いつの時代も変わらず、女の子はキラキラしたかわいいものが好きです。“キラキラペンダント”というコンセプトを大切にしつつ、時代の変化に合わせて展開していきたいです」

ここ数年、デザイン性が注目され、セボンスターのアクセサリー部分でスマートフォンを飾り付けるなど、アレンジする女性が増えているそうです。世代を超えて愛されるブランドにするため、商品開発同様、商品の魅力が伝わるイベントの企画を楽しみにしています！



NEW FAMILY

新しい仲間たち



日本カバヤ・オハヨーホールディングス株式会社

執行役員

さ の ふ み え
佐野 扶美枝

新卒で社会人になって以来マーケティング業務に携わってきましたが、学んだ1番のことは、「お客様のありがとうが売上を作る」ということです。お客様のありがとう、よかったよ、助かったよ、という気持ちが次の購入に繋がって、それが続いていくと、こちらが何もしなくても売れていく。売上ができる。売上ができると次のビジネスが生まれる。オハヨーのヨーグルトやプリンには、オハヨーでなくては、というお客様が大勢いらっしゃいます。入社前にそういう何人かの方に出会い、入社を決めました。皆様と一緒に、おいしい商品、健康にいい商品、お客様が次もぜひ買いたいと思える商品を提供していきたいと思います。よろしくお願いします。

趣味はミュージカル観劇、特に宝塚が大好きです。フィギュアスケートを見るのも好きです。ドラマはもっぱら海外ドラマ。週に1回、ジムに行くことが目標です。ゴルフは3年以上レッスンプロに付きましたが、全く上達しないので、断念しました。

略歴：日用品メーカー入社以来29年、化粧品、スキンケア品の商品開発、宣伝広告業務に携わる。
2017年10月入社。長崎県出身。



日本カバヤ・オハヨーホールディングス株式会社

社長付 次長

み ず は き み ほ
水吐 美帆

生活の基本となる「衣・食・住」の「住」の世界で25年働き、「住」が人々にもたらす幸せに接してきました。特に東日本大震災や熊本地震の後には、「住」が用意できないと本当の意味での生活のスタートが始まらないという状況を目の当たりにし、その重要性を再認識しました。そこから「衣・食・住」、その中でも「食・住」が揃うことへの幸せを感じ、それが「食」への興味のスタートとなりました。経営方針に「失敗を恐れず挑戦し、強靱な企業体質になる」とあります。私のメンターである方から、「メーカーの本質とは“新しいことに挑戦し続けること”」と教えられ、実践する姿を見てきました。変化に挑戦するのではなく、自分が変化し挑戦し続けることで企業価値の創造に貢献したいと思います。

子供の頃からのスキーに加え、最近は登山にはまり、夏も冬も山に通っています。首都圏近郊の百名山はほとんど制覇しました。昨年からは主人と共にゴルフを始め、ザ・ロイヤル ゴルフクラブで80台を出すことを目標に練習に励んでいます。

略歴：メーカーで25年勤務。主に、新規事業開発、広報（企業、商品、海外、社内と一通り）を経験した後、直近は社内カンパニー社長室長としてトップを補佐しながらチームへのビジョン、ゴール浸透やガバナンス、目標推進管理等に従事。その後、外食チェーンの広報責任者を経て現職。2017年10月入社。北海道出身。



日本カバヤ・オハヨーホールディングス株式会社

経営企画室 課長

お お わ だ し ょ う へ い

大和田 渉平

これまで、一貫してバックオフィス中心に、企業成長のためのサポートを担当してきました。業界は異なりますが、多岐に渡る販売チャネル・商品の経験を生かし、ホールディングスの経営企画室として複数事業の効率的な経営と事業発展の基盤作りのため、全力で取り組んでいきたいと思っています。仕事では素直さ、熱意と行動力を大切にしています。情報を自分自身で取り、可能な限り直接コミュニケーションを取ることで皆さんと共に成長していきたいと考えています。仕事柄、沢山の方々と関わると思いますので、ご指導のほどよろしくお願いします。

趣味はキャンプとバイクツーリングです。毎年キャンプに行っており、同時に登山も楽しんでいます。また、大型バイクの免許を取得し、独りでバイクを走らせ、自然を感じることが好きです。

略歴：大学卒業後、美容総合商社に入社。その後、医療機器メーカーで営業企画、ファイナンス・経理部門を経験し、買収した化粧品メーカーの親会社にて管理部門担当の執行役員、事業会社では経営管理部長として経営企画、財務・経理、情報システム、人事・総務、購買物流のマネジメントに従事。2017年11月入社。福島県出身。



日本カバヤ・オハヨーホールディングス株式会社

海外事業部

み よ し あ き ひ と

三次 章史

私は社会人になってから一貫して海外事業に携わってきました。経済発展の著しいアジアが中心でしたが、その国や地域の人々の生活を豊かにするという気持ちを持ち続け、利他の心を持ち社会への貢献に努めてきました。当社も海外事業部が発足し本格的な展開はこれからになりますが、すべてのステークホルダーを重視し、他国の地に足をつけるビジネスを展開していければと思います。世界中の方にカバヤ・オハヨーの商品を楽しんで満足して食べていただく環境を作る。このために何ができるかを考え業務に取り組んでいきます。

趣味は芸術に触れることです。特に学生時代に楽器を演奏をしていたこともあり、普段から音楽をよく聞きます。歳を重ねても感受性を豊かに持ち続けたいと思います。

略歴：2001年4月ゼネコンに入社。国際事業部に配属後、海外ODA案件でモルディブに約2年滞在。2008年10月乳酸菌飲料メーカーに入社。国際部に配属後、2010年から7年半インドに駐在。管理部門長として人事、会計、税務、法務、購買調達業務に従事。2017年9月入社。広島県出身。



日本カバヤ・オハヨーホールディングス株式会社

広報部 課長

す ず き さ ち え

鈴木 幸恵

新卒で入社した企業で2年ほどマーケティングを担当して以降は、ずっと広報に従事してきました。仕事では、人とのつながりやネットワークを大切にしています。ホールディングスの広報担当として、まずはグループ各社の広報担当の皆さん、社内の皆さんとのネットワークを構築していきたいと思っています。その上で、外部ステークホルダーに向けて、会社のレピュテーション向上、理解深化に貢献できるよう努めていきたいと思っています。広報部は、皆さんのお力添えなくしては成り立たない部署です。どうぞご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

趣味は乗馬です。小さい頃から馬が大好きで、時間さえあれば北海道で馬と過ごしています。また、ボクシングも10年以上習っていて、ある程度は戦えます。

略歴：製薬会社、FMCG業界で広報を担当。企業広報、製品広報、社内広報、社会貢献活動と幅広く広報業務に従事。2017年11月入社。東京都出身。

日本カバヤ・オハヨーホールディングス 広報部より

当初よりお伝えしていますが、会社に対して3回以上質問・意見・提案したこと、評価に対して知らされていない、3ヵ月以上返答がない、または納得が出来ていない、現場で抱えている問題…等々、誹謗中傷以外、あなたの発言を尊重して守り、個の利益・利害を阻害することなく、全て受け付けます。

ALL for ONEの精神にのっとり、問題・課題の解決に向けて取り組むことこそが事業にとって、あなたにとっての利益となると考えます。

現場にこそ答えがある。

ご連絡お待ちしております。

連絡先: 日本カバヤ・オハヨーホールディングス 広報部
担当: 豊田

Fax: **086-231-4783**

Mail: **info@kabaya-ohayo.jp**

ONE for ALL

当事者意識を以って、個々の人生設計を中・長期経営計画に映し出し、自らの豊かさと事業の成長・発展を一致させ実行し、達成する。

ALL for ONE

現状から目を背けず、現実を直視し、真の欲求を究めて、ホンモノをカタチにする。

トップからのメッセージを直接伝えると同時に、それぞれの取り組みにフォーカスし、全社一丸となってその一人を支えていく。



投稿・ご意見募集中！

「現場でこんな問題がある」「自分のアイデアを聞いてほしい」などの意見やALL for ONEの感想や疑問点をアンケートに記入して送ってください。ご意見、ご感想をお待ちしています。

[アンケートに答える >>](#)

編集後記

野津喬会長には一度しかお目にかかったことはありませんが、今回の訃報をうけ、様々な方に喬会長のお話を聞く機会を得ました。自然と盛り上がる数々の思い出話から、従業員の幸せとグループの発展を心から願う喬会長の想いが伝わってきました。今回インタビューした脚本家の坂口理子さんは「人の想いは継承され、その人がいなくなっても、どこかで花を咲かせる」と話していました。その言葉通り、喬会長の想いは確実に伝わっていることを実感しました。喬会長の想いを継承していくこと。それが残された者の使命であり、故人への何よりの供養になると思います。心からご冥福をお祈り申し上げます。(豊田)

日本カバヤ・オハヨーホールディングスグループ
Corporate Communication Magazine "ALL for ONE" Vol.18

発行：2017年12月20日

制作：日本カバヤ・オハヨーホールディングス 広報部
東京都千代田区紀尾井町3-12 紀尾井町ビル10階
TEL：03-3222-7311